

授業概要一覧 国際文化学研究科国際文化学専攻(修士課程)

授業科目		授業概要
共通科目	生命と生活の質特論	国際文化学研究科・健康福祉学研究科の二つの研究科に属する大学院生たちが、学問の領域を超え、いま大きな危機にさらされている私たちの生命・生活・人生の質(Quality of Life)を複眼的な視点で問います。二つの研究科からの複数の教員にもとで講義を聞き、自由なディスカッションやワークショップ形式の学びあいの中で認識を深めます。学際的な観点からのQOLについての学びを通して、それぞれの研究科でのこれからの学問研究へのひとつのきっかけをつかんでいただきます。
基礎科目	国際文化学研究法	国際文化学的研究とはどのようなものかについて具体的に理解するための科目です。研究者として修士研究を実行するにあたり自覚的な意識の明確化・先鋭化と、国際文化学研究科における学びと研究に必要とされる基盤的な知識・態度・技術の修得をめざします。専門の異なる4名の担当者が3コマずつ講義を行った後、最後に受講生全員が研究計画を発表し、総合的な討論を行います。
	文化コーディネート論	地域における文化領域とマネジメント領域の研究者やオピニオンリーダーから、理論と実践を通じて地域文化の活性化や事業展開の可能性などについて事例を通して理解します。具体的には、国際的な視点を踏まえて地域文化の振興、芸術による地域創造、地域活性化に向けた地域産業の振興などを視野に入れて、それぞれの事業の計画、運営等に関するシミュレーションをグループワークを導入して実践的に学びます。さらに、文化コーディネートやアートマネジメントさらに地域資源を活かす事業マネジメントなどに関して必要な専門的知識、技術、人間関係力などの大切さ等を講師との討論を通して理解します。
	総合実習	本学の4つの理念である「人間を尊重し、社会の国際化に専門的に対応でき、生活者の視点に立つて、地域文化の再生や創造に取り組むことのできる人材」となるためには、学生自ら、地域社会に出かけて、地域づくりや地域文化の再生・創造活動の現場で、直接に学ぶ機会を持つことが不可欠です。総合実習では上記の目的を踏まえ、大学院生が自らの関心と問題意識にもとづいて具体的な実習先を選び、そこで60時間の実習を行います。教員は、この実習が修士研究に資するものであること、さらに地域社会の現実を認識し、課題解決に貢献するものであることなどに配慮しながら、実習計画達成に向けて指導や支援を行います。
専門科目	比較政治特論	比較政治は幅の広い学問です。大学院では特に、大学院生が政治学自体の知識を有するか否かにも差異がでできます。授業ではこの点を考慮し、幅の広いところから始め、履修する大学院生の研究領域などを視野に入れ、授業で取り上げる比較政治の対象国や地域を定めていきます。
	国際関係特論	この授業の目的は、EUやASEANなどの地域統合を考察することにより、国際関係についての理解を深めることにあります。1990年代以降、世界の多くの地域において、国家間の協力や統合に大きな発展が見られました。授業ではその経緯および要因について、特にヨーロッパ、ラテンアメリカ、アジアの事例に焦点当てて検討し、国際関係を読み解きます。
	文化人類学特論	文化人類学は未開社会の研究から出発した学問ですが、現在では今日的な社会的・文化的課題に取り組むことが期待されています。授業では、人間についての総合的アプローチとともに、フィールドワークを行い、フィールドで得られたデータをもとに考える姿勢を身につけることをめざします。人類学に固有とされてきた諸テーマを掘り下げるだけでなく、広く、個人主義、民主主義、開発、人権など普遍的とされる概念に人類学的考察を加えます。
	多文化教育論	欧米やアジア諸国における多文化主義や多文化教育を参考にしながら、多文化共存・共生が進む日本の現代社会のなかで、一人の人間が家庭、学校、職場、地域などの社会的環境の中で成育し発達していく過程における言語習得やアイデンティティ確立をはじめとする社会化・文化化の諸課題について取り上げます。さらに、多様な個人を尊重しつつ、つながり合って新しい価値文化を形成していく多文化教育において、多文化共生の資質や能力、技術や態度をもった個人の育成のあり方についての議論を行ないます。前半で多文化共生社会づくりに焦点を当てて社会的課題を見た上で、後半では多文化共生社会に生きる人づくりを取り上げ、教育課題について考えます。
	国際文化特講Ⅰ	近代以降における日本と中国間の人の移動に焦点を当てて、人々の移動の要因と実態、移住後の適応、コミュニティの形成などを、文献や映像資料などを通して逐次に見ていきます。特に中国社会を構成する家族・親族の特徴について把握し、これらに基づいて形成・拡大される中国特有のネットワークの機能と特質について理解を深めます。
	国際文化特講Ⅱ	現代韓国社会、韓国人の日々の営みとその背景等、等身大の韓国像について探求します。若者と高齢者、個と社会、社会文化的トレンドをキーワードに、韓国に関する専門的な知識と異文化理解を深めるとともに、受講者の主体的な韓国認識の形成をサポートします。さらに、受講者の関心地域・国との比較の観点を取り入れることにより、より客観的な韓国理解を試みます。
	国際文化特講Ⅲ	欧米に関わる各種の課題について、その文化的背景などについて学び、現代のグローバル社会においてどのような影響を及ぼすかについて学ぶことを目的とします。特に少子高齢化の進む先進諸国において、高齢社会への対応や生きがいづくり、若者の健全な育成などがどのようになされているのか、そこに民主主義や資本主義はどのような影響を与え、価値観が変化してきているのかなどについて検討することをとおして欧米社会の理解を深め、日本への影響についても考察します。

授業概要一覧 国際文化学研究科国際文化学専攻(修士課程)

授業科目	授業概要
言語文化特講Ⅰ	中国の言語文化を、その典型的な表現形態の一つである文学作品を用いて考察します。授業では中国文学の精華といわれる唐代の詩歌を取り上げ、その読解を通じて、唐詩の文学的特徴を探り、その特質を考えます。さらに当時の文化の担い手であった詩人(伝統的知識人)の生態、彼らの政治や社会への関わりなどを明らかにします。
言語文化特講Ⅱ	英語研究の専門的な論文に基づいた講義と講読を通じて、英語を基にした言語研究、特に語用論の重点項目について高度な知識を身につけ、日常言語を分析的に理解する観察力と洞察力を養います。専門の論文に加え、小説、報道、古文といった英語の各ジャンルを読み分ける語学力を発展させ、学生自ら言語分析の素材を収集し、分類できるようにします。
言語文化特講Ⅲ	対照研究の観点から、韓国社会における言葉と文化の諸様相を明らかにする視点の確立をめざします。具体的には韓国・朝鮮語の固有の表現方法を取り上げ、その言葉の背後に広がる文化的・歴史的な様相を探りながら、韓国文化と日本文化の同質性と異質性について考察します。
仏教文化特論	日本文化の形成に大きな役割を果たしてきた仏教文化の特相を理解し、共感性を増すことを目標とします。仏教の真理観の根幹をなす「諸行無常」の正確な解釈に立脚した上で、教えの異なる様々な宗派(例えば、浄土系や禅系や日蓮系など)が、なぜ同じ「仏教」という枠で括られるのかを考えていきます。
日本文化特講Ⅰ	日本文化のエッセンスでもある中世芸能の中から、特に、地域に根ざし、なおかつ国際的評価の高い狂言を取り上げ、その特質をつかむことによって、地域文化理解の一助とします。山口市に伝わる鷺流狂言の歴史や特色について概説し、適当な演目のテキストを読み、その形成・構想・演出等を考察します。
日本文化特講Ⅱ	日本のさまざまな文化に関して、とくに歴史的な側面を中心として、参加者の興味・関心にあわせて学ぶしていきます。その際、知識の詰め込みや座学という域に止まらず、製作やフィールドワークなど日本文化に関連するさまざまな実践的な経験を積んでいくことも重視します。
日本文化特講Ⅲ	学生自身が修士論文で取り組んでいる課題に即して、「日本文化」という視点でディスカッションを行い、要因連関分析法を用いて、現状と課題を分析します。西洋では、論理の組み立てに因果律(なぜなら)を必須とするのに対し、東洋では、時系列(そして)で叙述する傾向にあります。日常生活においては、東洋的な時系列の説明を用いても問題はないのですが、アカデミック・レベルで論文を書くときには、西洋的な因果律で論述することが必要になります。本講義では、それを身につけるために、「なぜ」という疑問の徹底した追求によって問題の本質に迫る要因連関分析という方法を教授します。
地域学特論	地球人の驚くべき多様性をつかもうとする「人類学」、自分の暮らす足下に埋もれている宝を掘り進む「地域学」、そしてその中で自分の果たすべき役割を探る「自分学」。この授業ではこの3つを並行して学びます。山口県ゆかりの3人の大先輩に教えられたものです。油谷出身で屋久島で没した詩人・山尾三省柳井出身で人間の経済を研究した玉野井芳郎、周防大島出身の民俗学の宮本常一らをもとに、忘れられた日本人たちの記憶をよびさし、地域から元気をもらいつつ、地域を元気にしていく智恵をわかちあいましょ。
NGO・NPO特論	株式会社などに代表される企業は「営利を目的とする組織」であるのに対し、「営利を目的としない組織」を非営利組織(Non-Profit Organization、NPO)といい、非常に多くの分野と形態があります。特に、国際協力を行っている組織をNGO(Non-governmental Organization)といいます。授業では開発途上国や日本の地方が抱えている課題について理解を深めるとともに、国際協力で用いられる分析手法を習得し、国際協力や日本の地方活性化に貢献できる知識と技術を身につけます。
文化遺産論	授業は、①「文化遺産の理念、文化遺産を遺すことの社会的意義」の理解、②「文化遺産をめぐる調査・研究の方法論」について、③「利活用の手法・これからの文化観光のあり方」、の三部で構成されます。国内外の事例分析を通じて、文化遺産をめぐる今日の諸問題を十分に理解し、最終的には、日本や山口地域といったリージョナルな視点から、自らがこの問題に対しどのように関わられるかを考察します。
文化創造特講Ⅰ	山口県内の博物館、美術館等を切り口に美術表現に対する造詣を深めていきます。作品、作家、展示空間、学芸員、企画など、様々な視点から美術表現を理解できるようにします。現代美術、メディアアート、その他のメディア表現についても取り上げ、表現や地域文化について考えます。
文化創造特講Ⅱ	文化創造を志向するために、生活の中でもっとも人間に身近な表現メディアである服飾と地域創造や都市創造との関わりを中心に取り上げます。 オートクチュール、プレタポルテ、コンフェクションなどの作り手が創造するファッションとストリートファッションなどサブカルチャーから生まれる受けて側が生み出すファッションの諸相を、世界のファッションシーンの中で理解します。さらに、ファッションショーが地域文化基盤整備に繋がっていることも取り上げます。 日本の伝統文化において醸成され、様式化された美が欧米の美と融合されたモードのジャポニスムについて学び、日本の美を再評価するとともに、新しい文化が国際的な文化融合の中で生まれていることを理解します。

授業概要一覧 国際文化学研究科国際文化学専攻(修士課程)

授業科目		授業概要
	文化創造特講Ⅲ	人々の生活の中で、「新たな価値の創造と持続」という使命を持つ造形についての意義と理念、そしてその具現化と存在の必然性を学ぶことをねらいに授業を展開します。「人」「もの」「環境」の調和・融合という造形のパラダイムの理解と、生活道具のデザインをテーマにした造形表現について講義を進めていきます。
特別研究	国際文化学研究	学生が選んだ修士論文・制作のテーマに即して、修士研究計画書をふまえ、複数教員による研究指導を行います。自らが発見・分析した問題の解決に資する方法を見出し、提案することを通して、国際文化学についての知見を修得し、その成果を中間発表会や最終発表会、大学院合同発表会などで報告し批評を得ます。山口国際文化学研究会への参加や関連学会等への参加を通して、研究方法や研究内容の深化を図ります。国内外での学会発表や論文投稿なども奨励しています。